

## むすび塾in広島

山本学区社会福祉協議会

会長 小堀 昭 男

令和4年11月5日(土)、東日本大震災の教訓をもとに「いのちと地域を守る」キャンペーンに取り組み河北新報社(仙台市)の防災ワークショップ「むすび塾」を、中国新聞社、広島経済大学、広島市安佐南区山本学区と連携して実施しました。

## 〈趣旨〉

広島市安佐南区はこれまで大雨による土砂災害が相次いでいます。山本学区では高齢化率が年々上がっていて、災害時の要配慮者の避難が大きな課題としてあります。

こうした現状から、新聞社・大学・地域住民が連携し、東日本大震災体験者の教訓をもとに、災害時要配慮者の支援に向けた課題と、解決に向けた自助、共助を考えることを目的として「むすび塾in広島」を実施しました。

## 午前の部

講演会 10時30分～12時

広島経済大学 明德ホール

蟻坂 隆さん(30分)

(宮城県石巻市・八幡町町内会)



要支援者の避難を支援者が補助する八幡町のネットワークを2004年に、町内会や民生委員が中心となって作った。地震が起こったときに感じたことは、支援者だけに頼るのではなく、近所の住民同士が助け合える関係をつくっておくことの重要性だった。

石山うみかさん(30分)

(宮城県石巻市・介護サービス事業者めだかグループ)

震災前、避難時間の短縮を目指し、年4回ほど防災訓練を行っていた。震災発生直後もすぐに車での避難を開始し、結果として利用者と職員、住民ら計87人を高台へ無事移動させることができた。事前に避難経路や場所を決めていたことが、素早い行動につながったと思う。災害時は事前の準備が、避難の成否を左右する。訓練はもちろん、日常の中に防災にも役立つことを取り入れ、災害への意識を根付かせ、落ち着いた行動につなげてほしい。

## 午後の部

避難訓練 13時30分～14時

Aグループは、7丁目の谷口さんとそのお孫さんに、自宅から山本小学校まで通学路を通って避難していただきました。

Bグループは、9丁目の小嶋さんに車いすに乗ってもらい、自宅から山本小学校まで通学路を通って避難していただきました。

A・Bグループいずれにも広島経済大学生、地域住民、区社協職員が補助員として参加しました。

ワークショップ 14時30分～17時30分

山本集会所2階ホール

河北新報社2人 中国新聞社2人

広島経済大学2人 山本学区6人

ワーク

シヨップ

参加者を取り巻くように、約30人の参加者が傍聴する形で行われました。

その中で話された感想、意見は、次のとおりでした。



○山本学区は、街灯が少なく、夜間の避難は適していないと感じた。また、大雨になると住民は風雨を避けるため、避難に車を利用する確率が高い。避難所の駐車場が足りなくなると、一帯

が渋滞する可能性がある。課題があっても、どうすればよいか、知恵をしぼり、時には行政に提案することも必要だろう。

○日頃の健康・体力づくりと近所付き合いの大切さも再認識した。

要配慮者が自ら頑張って玄関先まで出ることができれば、気心の知れた住民の支援が受けやすくなり、速やかな避難にもつながる。

○避難の途中、道幅がせまい、段差がある、石垣やブロック塀がある、車いすが通りにくいところがある等、注意をする必要があるところが多くあることに改めて気づかされた。

○要支援者の避難を考える際、健常者が車いすに乗ったり、アイマスクや耳栓をしたりして、自ら体験し、互いに行動を検証してみると、課題がたくさん見つかるはずだ。

○学生が地域と連携し、若者や子育て世代など多様な世代を巻き込んでいけるようにしたい。

活発な質疑応答に加え、参加者は広島ご当地の「百歳体操」や、めだかグループの足腰体操を体験したほか、唱歌「ふるさと」を一緒に歌い、親交を深めました。